

伊敷台中『日和』

伊敷台中学校だより
10月号 (R5. 10. 13)
文責：校長

スポーツの秋。躍動感溢れる姿に感動。

—「かごしま国体(開会式等)」を参観して—

■鹿児島県選手団の力強い入場行進



鹿児島県は47番目(最後)の入場となりました。他県を大きく上回る数の選手・役員による入場行進は迫力満点で、頼もしく感じました。

県知事や御来賓の方々による挨拶、選手宣誓からは、2020年開催予定がコロナの影響により3年遅れて開催できたことへの感謝と喜び。そして、この大会をコロナからの再生と飛躍になるイベントとして盛り上げたいという熱い想いが伝わりました。

皆さん、一県民として盛会を祈りましょう。

■中学生(吉野中2年)による集団演技



開会式に華を添えるのは幼・小・中・高・一般による集団演技です。中学生代表として参加したのは吉野中の2年生。昨年からの練習を始め、何度も何度もリハー

サルを繰り返し、本番に望んだとの事。一糸乱れぬ演技と明るい表情と退場するまでの機敏な行動。同じ市内の中学生の頑張りに拍手です。

■本校美術部が作成した都道府県応援登り旗



ライフル射撃の少年男女「チーム・ピストル」競技は「ハートピアかごしま」で行われました。

会場で一際目を引いたのが県内小中学生が作成した他県を応援する登り旗です。本校が作成した「山形県・秋田県」「熊本県・大分県」の応援旗も、県外選手団に

対する温かいメッセージとして掲示されていました。登り旗の前で写真を撮る選手もあり、皆さんの想いが伝わったのではないかと思います。

作成した登り旗は、ハートピアかごしまの他、セーリング会場(平川セーリング会場)、ボウリング会場(サンライトゾーン)にも掲示されたようです。作成した美術部の皆さん、ありがとうございました。

読書の秋。新たな出会いを求めて。

—読書を通して、自分の生き方を考える—

長い人生の中で、人間には三つの出会いがあるとされます。「人」「体験」との出会い、そして「本」との出会いです。



■ストーリーの中に生活のヒントがある。

伝記・歴史分野の本からは、登場人物の生き方や考え方に共感し、自分の生活や生き方を見直すことができます。推理小説等では、事件を解決していくプロセスが、思考の幅を広げ自分自身の課題解決に役立つこともあります。

ジャンルを固定せず、様々なジャンルの本を手にするをお勧めします。

■「心に残る本」として記憶するために。

一冊の本を読み終えた後は、爽快な達成感に包まれます。しかし、しばらくすると内容を忘れることがあり、2度3度と読み返す場合もあります。私は感動する本に出会ったときに、その内容、セリフ、人間関係を図で残すようにしています。例えば次のような感じです。

見にくいですが、ごめんなさい。参考程度に読んでください。スポーツの秋とともに、読書の秋を満喫しましょう。

火怨(上・下) 高橋克彦著 (2000年吉川英治賞)

- 8世紀、辺境にアサギ、黄金を求めて支那(唐)に渡り、朝廷の大軍に支那兵(唐)の若きリーダー阿弓流為(アキナガ)が率いる。
- 一度は勝利する阿弓流為の前に、皆将 坂上田村麿(サカノウラタ)が現れる。
- 師徒関係、敵対する相手の背高(アキナガ)の、怒動(アキナガ)の。
- 少数で多勢を打ち負かす見事な戦略に驚く。

敵陣(阿)の陣形

```

    A --- B
    |     |
    C --- D
  
```

矢を放つ (A→B→C→D)
矢を別の方向に放つ (A→C→B→D)

敵は四方に陣形をとり、思いつく限り、

<人間関係>

阿弓流為 - 坂上
「俺はお前の胸の中に我が師の心に我が命を賭けた。だから決して俺は決して背を向く。決して背を向くことは出来ぬ……。」

11月、12月の主な学校行事

- 11月 9日 (木)：PTS登校観察
- 11月14日 (火)：3年授業参観・学年学級PTA
- 11月21日 (火)～24日 (金)：期末テスト
- 11月27日 (月)～12月7日 (木)：3年三者相談
- 12月 3日 (日)：PTA源回収(伊敷台小校区)
- 12月 6日 (水)：PTS登校観察
- 12月 8日 (金)：1, 2年ロードレース大会
- 12月 9日 (土)：3年ロードレース大会
- 12月15日 (金)：1, 2年授業参観・学年学級PTA
- 12月19日 (火)：創立30周年記念講演会
- 12月22日 (金)：2学期終業式